

## バグダッド 日誌 (2月9日)

### ○コアリション(有志連合)

多国籍軍コアリション・オペレーション部の事務所に朝、顔を出した時に先ずすることは握手である。モンゴルの大佐とは、まずハグ(抱き合う)をして朝の挨拶を実施する。これらの挨拶は、三々五々事務所に入ってきた順に、所在する連絡幹部全員と実施するのが習慣となっている。私は朝の挨拶をする際は、多少忙しくても手を止めて立ち上がり、しっかり目を見て挨拶する様になっている。私の大好きな朝の一瞬だ。

ここコアリション・オペレーション部の雰囲気は大変良い。お互いが尊敬し合い、助け合っている。バグダッドという多少緊張感がある場所での勤務がそうさせているのかも知れないが、言語・宗教・文化・肌の色が違っても兄弟の絆を感じることができる。

昨日、コアリション・オペレーション部の副部長 [ ] が3時にピザ・ハットのピザを差し入れしてくれた。皆でワイワイ食していると、[ ] が「このピザもアメリカで初めて出店された時は、すぐに潰れると思ったが、今や全米中にあるよ。」と感慨深いう。するとカザフスタンの中佐が、「カザフスタンもこのピザの店は沢山ありますよ。世界は一つになろうとしているのかもしれないね。」と答えた。

これから世界は、様々な試練に立ち向かう時、コアリションを組んで解決する方策を模索するであろう。それぞれの「国家を守る」という同じ志をもつ者が、共通の目標に向かって事に臨もうとする「戦友意識」は、「世界が一つになることを現実にする。」と思わせるほど、利害関係のない純粋なものであると感じている。

### ○パパ

私のデスクの前には数多くの電話機がずらりと並ぶ。プレッシャーをかけるがごとく、統合、インマル×2、自即×2、DSN...。中でもDSNは各国語の英語を押しつけるので嫌い。インマルは班員が安らぎを分けてくれるので好き。

班長は娘と電話するとき「パパでちゅよ」と言った後、こちらをちらっと見た後「お父さんだよ」と言い直す。電話の向こうからは京都訛の可愛い声が聞こえてくる。この訛は聞き取れるから好き。私には「調整終わるまで帰ってくるな!」と厳しい指導をしてくださる班長も、この一時はとても優しいパパである。[ ] パパ、[ ] パパに [ ] パパ、皆さん幸せそうに話す。一時の安らぎを与えてくれるインマルより難う。だから、インマルは好き。

遠く外国での勤務を理解し、留守を守ってくれる妻に感謝するとともに連絡手段を確保できる環境を整備して下さった関係者の皆様に深く感謝します。娘(息子)の声は明日への活力です。

(仕事した振りをして盗み聞きする先任連絡官補佐 [ ] )